

おかげさまで発刊100号

組合員をはじめ多くの方に、JA広島市の気持ちをまっすぐに届けるため、広報誌を手紙に見立てておかげさまで今月号で発刊100号となりました。地域農業を担う生産者である正組合員とその応援団の100号を迎えた本号では、これまで発刊に関わっていただいた方や愛読して下さった組合員

これからもよろしくお願いたします!

2013年4月に創刊した「こいぶみ」。である准組合員のみなさんが主役の農業協同組合。のみなさまに、感謝の気持ちを込めた特別企画をお届けします。



愛読者からの100にまつわるエピソード

西本 サキコさん (佐伯区)
4月より、いきいき百歳体操を始めました。

三井 恵美子さん (東区)
先日、主人が免許更新で認知機能検査を受けました。後日、100点の通知が来てニコニコ。

大野 弘子さん (安佐北区)
2~3年前の敬老の日に100歳の母が近くの小学校の講堂で表彰されました。数名の100歳の方の名前が読み上げられましたが、会場に足を運んだのは母だけでした。その後、母は人生を終えましたが、終える直前まで美しく、私の自慢でした。

沖本 真美さん (安佐南区)
小さな頃、家に100円の大阪万博の記念硬貨があったのを思い出、懐かしい気持ちになりました。

正尺 豊子さん (安佐北区)
幼稚園児の孫が最近100まで数えられるように。それまで娘は数が数えられないわが子にヤキモキ。「いつか数えられるよ」と心のなかでは思いつつ陰ながら応援しておりました。そんな孫の隣で、2歳の弟も「いち、にい」と。毎日お兄ちゃんのお風呂での特訓を隣でジッと聞いていたのでしょう。弟もたくましく育ちそうです。

あの日、あの時、こいぶみで



vol.50 (2017.5月号)にご登場

三宅 祐二さん (39)
安佐北区白木町

本誌にご登場されたときのことを覚えていらっしゃいますか?

覚えていますよ。掲載前年に、コールドプレスジュース専門店「Vérité(ベリテ)」の運営を始め、ちょうど食材としてのピーツやケールの可能性を感じ始めたときでした。

表紙を飾って何か変化はありましたか?

2018年の豪雨で、17棟あるハウス全てに土砂が入り、土を入れ替え、そのうち4棟は建て替えました。生産再開までに半年かかりましたが、「こいぶみ」の取材時に就農した時の決意を思い返していたことも支えになりました。

「こいぶみ」に期待することは?

珍しい野菜を栽培する生産者や栽培方法、他には「6次産業化」を進める生産者やその商品、さらには新規就農者の情報も知りたいですね。



編集部からの
おいしい
情報

三宅さんが運営される『Vérité(ベリテ)』は、現在、広島バスセンター3階のバスマチフードホールで営業中です。プロ野球選手も愛飲する“飲む輸血”ともいわれるピーツを贅沢に使った「リッチレッド(#8)」がおすすめですよ。

宮本 博さん (96)
佐伯区湯来町

※当時、と一緒に取材させていただいた奥さまのヨシ子さんは、現在療養中のため博さんにお話を伺いました。

本誌にご登場されたときのことを覚えていらっしゃいますか?

当時は営農指導員さんのアドバイスを参考にしてタラの芽をがんばって栽培していました。その頃は、夫婦一緒にできる農業が楽しかった。82歳まで大工として働いていたので、結婚してから長い間、妻が田んぼや



創刊号(vol.1) (2013.4月号)にご登場

畑の管理をしてくれていました。妻の体調も良かったときなので懐かしいですね。農業では妻が先生でした。

「こいぶみ」はご覧いただいていますか?

毎月拝見しています。最新号で付き合いのあった方の記事や写真を見つけるのが楽しみです。昔のことを思い出しますね。

若手農家へメッセージを

太陽の光を浴びて土に触れる農業は健康に良いのではないのでしょうか。現在、農業を営んでおられる方には長く続けてもらいたいです。若い方にも農業をしてほしいですね。

ヨシ子さんの一日も早いご快復をお祈り申し上げます。(編集部)

8年前と今のJAの姿~着実に協同組合の輪が広がっています

これからもJA広島市は、農業と生活設計におけるアドバイスとサポートという事業を通じて、地域の暮らしに確かさと彩りをつくります!

	2013年4月末現在	2021年4月末現在
出資金	57億円	100億4000万円
組合員数	94,949人	118,163人
貯金残高	4,979億円	6,252億円

100歳の正組合員さん~いつになっても組合員

岡崎 ミカエさん (100)
安佐北区安佐町小河内
大正10年6月20日、
小河内生まれ



子ども5人を育てながら約1.3^{ヘクタール}で水稲を栽培し、米はJA出荷。98歳まで鋤を持ち田畑で農作業をされていたそうで農業歴は75年! 農業機械の運転はしたことがありませんが、牛の扱いが得意で、牛を使って田畑を耕していた頃のことを楽しそうにお話していただきました。「農協と一緒に歩んできた100年」というミカエさん。まだまだお元気です!



本誌取材時は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ソーシャル・ディスタンスの確保やマスク着用を行っております。ご登場いただく方には、撮影時のみマスクを外していただく場合があります。

本誌タイトル「こいぶみ」とは、JA広島市の気持ちをまっすぐに、組合員をはじめ多くの人に届けるため、広報誌を手紙に見立てたところから命名いたしました。「こいぶみ」の「こい」には、人や地域を愛する「恋」のほか、多くの人に呼んでもらえる「来い」、情報が「濃い」など、さまざまな意味を込め表現しています。